泉州国際市民マラソン
第7回大会 2000年（平成12年）

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 7th CONVENTIONS

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON
早春を駆けぬける…
あなたは今 風になる
第7回
泉州国際市民マラソン
平成12年2月20日(日)午前11時スタート
OSAKA
大阪21世紀計画
42.195km
MARATHON

2月20日(日)
天　　候：雨
気　　温：7℃
参加者数：2,921人
完走者数：2,286人
沿道人数：47万人

第7回泉州国際市民マラソン
START

第7回大会を迎え、全国各地から2900名を超える参加者が早春の泉州路を走り抜けた。大阪府下で唯一、公道を使用した市民によるフルマラソンだけに、申し込み者が多いことは人気の高さを如実に示している。今回のコースでは4回目であるが、フィニッシュ会場が下水処理場の奥まった地点にあり、コース変更の必要が話題となった。

泉州に根付いたマラソン大会のコースはほとんどが市街地を占めているため沿道の声援は途切れることはない。岸和田では“地車”を出して、笛や太鼓の鳴り物で選手を元気づけ、この“だんじり囃子”もおなじみとなり、選手にとって人気が高く、泉州国際市民マラソンならではの特別な風景である。

レースは、スタート後しばらくして小雨もあがり、コースコンディションも良くなり、積水化学の鎌込和成が、NTT関西の長谷川真也、藤阪和博両選手を振り切り、2時間15分24秒の好記録で優勝。女子は安部友恵（旭化成）が2時間29分09秒で快走、シモーネ・スタイクに6分以上の差をつけ、実力どおり優勝した。

女子の安部友恵は、前評判どおりの走りであったが、男女総合順位第6位のフィニッシュは過去に例のない快走で泉州路にきらびやかな華を咲かせた。

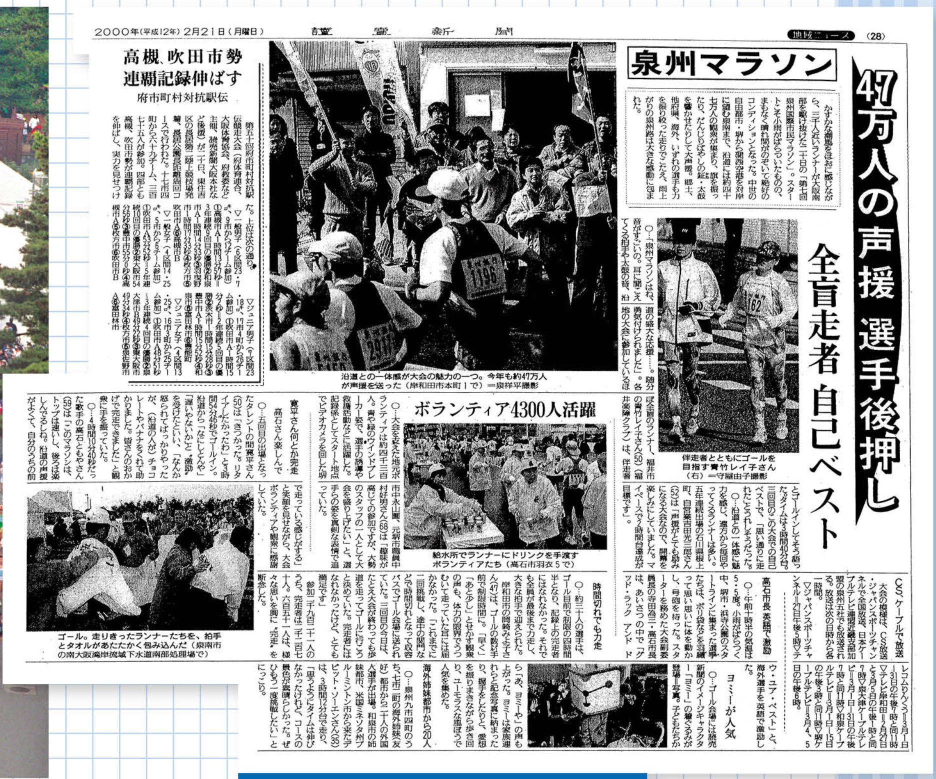
今回も、タレントの間寛平や山田敬蔵、高石ともやらが沿道の声援にこたえながら力走した。

第7回 泉州国際市民マラソン
開会式・レセプション

開会式で力走を誓う招待選手たち
（19日、りんくう全日空ゲートタワーホテルで）

選手を元気づける恒例となっただんじり囃子

一斉にスタートする選手たち



2000年（平成12年）2月21日（月曜日）　讀賣新聞　地域ニュース　（28）

泉州マラソン

47万人の声援 選手後押し

全盲走者 自己ベスト

かすかな潮風をほおに感じながら、三千人近いランナーが大阪南部を駆け抜けた二十日の「第七回泉州国際市民マラソン」。スタートこそ小雨がぱらついたものの、まもなく晴れ間がのぞいて絶好のコンディションとなった。中世の自由都市・堺から関西空港を対岸に臨む泉南まで、沿道には約四十七万人の観衆が集まり、旗を振ったり、だんじりばやしの鉦（かね）・太鼓を響かせたりして大声援。郷土、他府県、海外、いずれの選手も力を振り絞った走りでこたえ、雨上がりの泉州路は大きな感動に包まれた。

沿道との一体感が大会の魅力の一つ。今年も約47万人が声援を送った（岸和田市本町１で）＝泉祥平撮影

伴走者とともにゴールを目指す青竹レイ子さん（右）＝守屋由子撮影

○…「泉州マラソンはね、音がすごいの。耳に聞こえてくる拍手や太鼓の音、沿道の盛大な応援……。随分勇気付けられました」。各地の大会に参加しているほぼ全盲のランナー、福井市の青竹レイ子さん(50)（福井楽陸クラブ）は、伴走者とゴールインしてそう語った。タイムは3時間40分台。三回目のこの大会での自己ベストで、「思い通りに走れた」とうれしそうだった。

○…沿道との一体感に魅力を感じ、遠方から毎回やってくるランナーは多い。五年連続出場の石川県根上町、自営業吉田光三郎さん(52)は「声援がとても励みになる大会なので、開幕を楽しみにしていました。マイペースで2時間台達成が目標です」。

CS、ケーブルで放送

大会の模様は、CS放送・ジャパンスポーツチャンネルで全国放送、日本ケーブルテレビ連盟近畿支部加盟の泉州五社でも放送される。放送は次の日時から各一時間。

▽ジャパンスポーツチャンネル＝27日午後5時▽テレコムりんくう＝3月1日－31日の午後7時と同11時▽テレビ岸和田＝2月27日と3月5日の午後1時と同7時▽泉大津ケーブルテレビ＝3月1日－31日の午後7時と同11時▽和泉ケーブルテレビ＝3月1日－15日の午後3時と同11時▽堺ケーブルテレビ＝3月4、5日の午後6時。

高石市長 英語で激励

○…午前十時半の気温は5・5度。小雨がぱらつく中、堺市・浜寺公園のスタートラインに集まった選手たちは、ポリ袋などを羽織って思い思いに体を動かし、号砲を待った。スターターを務めた大会副委員長の寺田為三・高石市長は、あいさつの中で「グッド・ラック アンド ドゥ・ユア・ベスト」と、海外選手を英語で激励した。

ヨミーが人気

○…ゴール会場には読売新聞のイメージキャラクター「ヨミー」の着ぐるみが登場＝写真。子どもたちから「あ、ヨミーや」の声も上がった。ヨミーは家族連れらと記念写真に納まったり、握手をしたりと、愛想を振りまきながら歩き回り、ユーモラスな風ぼうで人気を集めた。

時間切れでも力走

○…約三十人の選手は、ゴール目前で制限の四時間半となり、記録上の完走者にはなれなかった。それでも全員が最後まで力走し、大きな拍手で迎えられた。

岸和田市の岡崎みよ子さん(47)は、ゴールの数㍍手前で制限時間に。「早く」「あと少し」とせかす観衆の声も、体力の限界でうつむいて走っていた耳には届かなかった。「これまでに二回挑戦し、途中の関門などで時間切れとなって収容バスでゴール会場に送られていた。三回目の今日は、たとえ大会が終わっても歩道を走ってゴールに行こうと決めていた。完走者にはなれなかったけど、とても満足です」

参加二千九百二十一人のうち、完走者は二千二百七十人。六百五十一人は、様々な思いを胸に〝完走〟を断念した。

海外姉妹都市から20人

○…泉州九市四町のうち、七市二町の海外姉妹（友好）都市から二十人の外国人選手が出場。和泉市の姉妹都市、米国ミネソタ州ブルーミントン市から来たデビット・ソーエンさん(35)は、3時間12分台で走り、「思うようにタイムは伸びなかったけれど、コースの景色が素晴らしかった。ぜひもう一度挑戦したい」とにっこり。

ボランティア4300人活躍

給水所でランナーにドリンクを手渡すボランティアたち（高石市羽衣５で）

○…大会を支えた地元ボランティアは約四千三百人。青や緑のウインドブレーカー姿で、選手の誘導や救護活動などに活躍した。記録係としてスタート地点でビデオカメラを回した堺市中永山園、元堺市職員中村好男さん(68)は「趣味が高じての参加ですが、大勢のスタッフの一人として大会を盛り上げたい」と、選手らの姿を真剣な表情で追っていた。

寛平さん何とか完走

高石さん楽しんで

○…五回目の出場となったタレントの間寛平さん(50)は「きつかった。リタイアしたかったわ」と3時間54分46秒でゴールイン。沿道から「なにしとんや」「遅いやないか」と〝激励〟を受けたといい、「なんか怒られてばっかりやったが、（沿道の人が）チョコレートやバナナをくれて助かりました。皆さんのおかげで完走できました」と観衆に手を振っていた。

○…4時間10分40秒だった歌手の高石ともやさん(59)は「このマラソンは、トップは速いし、後ろは楽しんでるしね。沿道の声援がよくて、自分のうちの前で走っている感じがする」と笑顔を見せながら、大会ボランティアや観衆に感謝していた。

ゴール。走りきったランナーたちを、拍手とタオルがあたたかく包み込んだ（泉南市の南大阪湾岸流域下水道南部処理場で）

高槻、吹田市勢 連覇記録伸ばす

府市町村対抗駅伝

第五十回府市町村対抗駅伝競走大会（府体育連合、大阪体育協会、府教委など主催、読売新聞大阪本社など後援）が二十日、東住吉区の長居第二陸上競技場発着、長居公園長距離周回コースで行われた。十七市四町から六十九チーム、三百七十五人が参加。四部とも高槻、吹田市勢が連覇記録を伸ばし、実力を見せつけた。上位は次の通り。

▽一般男子（6区間23・7㌔、9市から12チーム参加）①高槻市A1時間13分57秒＝3年連続9回目の優勝②和泉市A1時間14分33秒③羽曳野市1時間17分33秒④枚方市⑤吹田市A⑥高槻市B

▽一般女子（4区間14・25㌔、5市から6チーム参加）①吹田市A53分52秒＝5年連続10回目の優勝②東大阪市54分56秒③豊中市55分0秒④高槻市A⑤枚方市⑥吹田市B

▽ジュニア男子（7区間23・18㌔、17市4町から26チーム参加）①吹田市A1時間15分2秒＝2年連続5回目の優勝②茨木市1時間15分28秒③豊中市A1時間15分52秒④和泉市⑤富田林市⑥熊取町

▽ジュニア女子（4区間13・25㌔、16市3町から25チーム参加）①吹田市A48分51秒＝3年連続4回目の優勝②泉大津市B49分22秒③東大阪市49分34秒④枚方市⑤泉佐野市A⑥富田林市

2000年（平成12年）2月21日付朝刊

沿道からランナーに声援をおくる人たち

ゴールした選手たちにタオルをかける

優勝

第7回大会

男子　積水化学　**鎌込和成**

女子　旭化成　**安部友恵**